

ユニバーサルデザインとは何か

JFMA調査研究委員会
ユニバーサルデザイン研究部会

01

ユニバーサルデザイン研究部会について



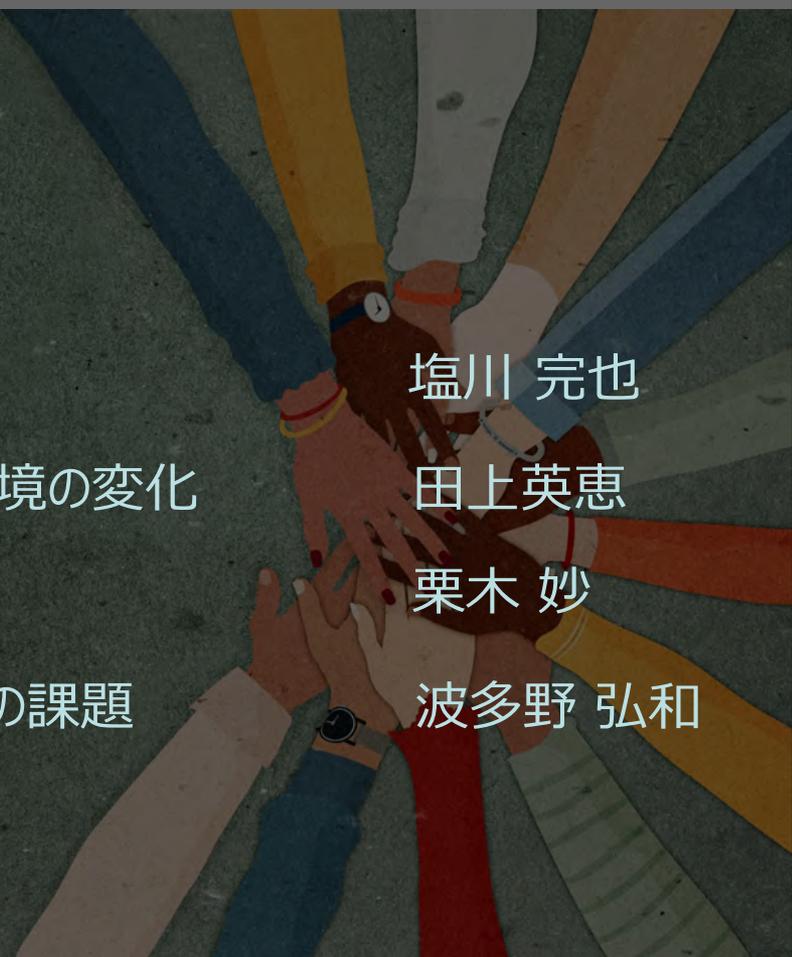
ユニバーサルデザイン研究部会について

当調査部会では、2012年よりワークプレイスのユニバーサルデザイン（Universal Design：UD）について調査研究を行ってきました。

ユニバーサルデザインは、年齢、性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、できるだけ多くの人々が利用しやすい製品、環境、サービスなどを目指して設計する概念です。

本講座では、ユニバーサルデザインの歴史的背景や定義といった基本情報に加えて、ユニバーサルデザインを取り巻く社会・環境の変化や様々な実践例を紹介します。

さらに、現代における新たな課題についても考察いたします。



ユニバーサルデザインとは何か

02 ユニバーサルデザインの基礎知識

塩川 完也

03 ユニバーサルデザインを取り巻く社会や環境の変化

田上英恵

04 ユニバーサルデザインの事例

栗木 妙

05 ユニバーサルデザインに関するこれから先の課題

波多野 弘和

02 ユニバーサルデザインの基礎知識



02

ユニバーサルデザインの基礎知識

ユニバーサルデザインの定義や考え方

ユニバーサルデザインの7原則

バリアフリーとユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインにつながる主な概念

ユニバーサルデザイン関連する主な制度と経緯



ユニバーサルデザインとは？（定義や考え方）

●ユニバーサルデザインという概念は、米ノースカロライナ州立大学ユニバーサルデザインセンター Center for Universal Design)所長のロナルドメイス(Ronald Mace)が中心に1985年に公式に提唱された。⇒「ユニバーサルデザインの7原則」へ

■ ユニバーサルデザインとは？

ユニバーサルデザイン（Universal Design）は、**年齢、性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、できるだけ多くの人々が利用しやすい製品、環境、サービスなどを目指して設計する概念です。**

<特徴は？>

- 「特別な」デザインではなく、「みんなのための」デザインを目指す
- 後からではなく、はじめから考えておく
- 「人とモノや空間、サービスとの関係性そのもの」を指す「考え方」

<総務省HP、「UD資料館」等を参考に作成>

<ロナルド・メイスが提唱したユニバーサルデザインの定義>

「特別な製品や調整無しで、最大限可能な限り、すべての人々に利用しやすい製品、サービス、環境のデザイン」

原文：The design of products and environments to be usable by all people, to the greatest extent possible, without the need for adaptation or specialized design.

ユニバーサルデザインの7原則

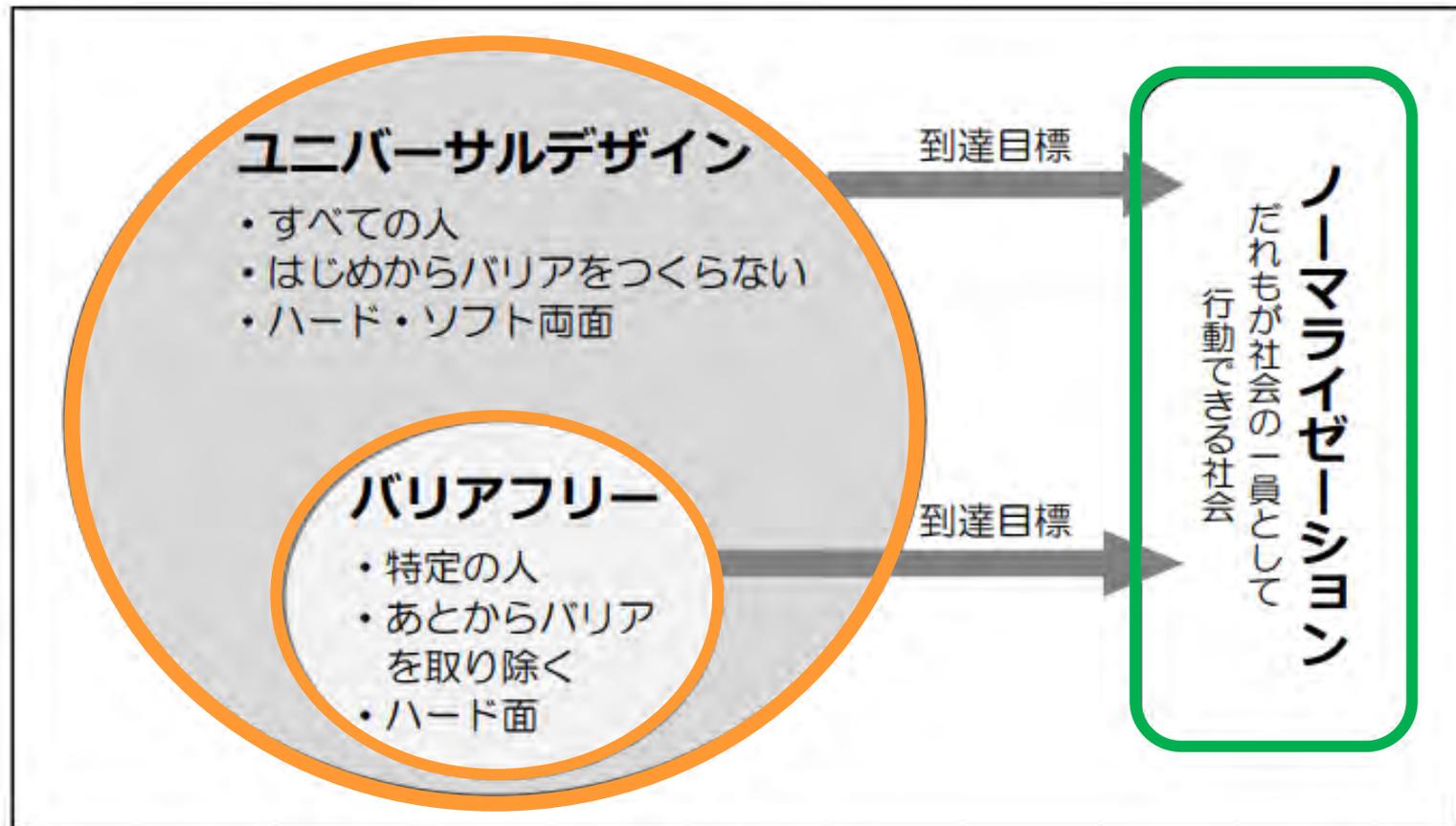
■ ノースカロライナ州立大学ユニバーサルデザインセンター ロナルドメイス氏による7原則

1. どんな人でも公平に使えること。
(**Equitable use** / 公平な利用)
2. 使う上での柔軟性があること。
(**Flexibility in use** / 利用における柔軟性)
3. 使い方が簡単で自明であること。
(**Simple and intuitive** / 単純で直感的な利用)
4. 必要な情報がすぐに分かること。
(**Perceptible information** / 認知できる情報)
5. 簡単なミスが危険につながらないこと。
(**Tolerance for error** / うっかりミスの許容)
6. 身体への過度な負担を必要としないこと。
(**Low physical effort** / 少ない身体的な努力)
7. 利用のための十分な大きさと空間が確保されていること。
(**Size and space for approach and use** / 接近や利用のためのサイズと空間)



バリアフリーとユニバーサルデザイン

■ バリアフリーとユニバーサルデザインの関係



板橋区のHPより

ユニバーサルデザインにつながる主な概念



参考文献：
『建築：都市のユニバーサルデザイン』（彰国舎）

ユニバーサルデザインにつながる主な概念

※それぞれの言葉の考え方やアプローチは違っていても方向性は共通している

6. インクルーシブデザイン 1990年代（イギリス）

これまで利用から排除されていた高齢者や障害者など特別なニーズを抱えた消費者も、ユーザーに含める（include）デザインの考え方

1. ノーマライゼーション 1950年代（デンマーク）

元々は社会福祉をめぐる社会理念の1つで、障害者や高齢者といった社会的な弱者に対して特別視せず、誰もが社会の一員であるといった捉え方をするのがノーマライゼーションである

5. 共用品 1990年代（日本）

身体的な障害・機能低下のある人も、ない人も、共に使いやすくなっている製品とサービスのこと

3. デザインフォーオール 1960年代末（ヨーロッパ）

すべての人が様々な領域で容易に社会に参加できるようにするためのデザインの考え方

2. バリアフリーデザイン 1950年代末（アメリカ）

4. ユニバーサルデザイン 1980年代（アメリカ：ノースカロライナ）

参考文献：

『建築：都市のユニバーサルデザイン』（彰国舎）

『人間工学とユニバーサルデザイン新潮流』（日本工業出版）

ユニバーサルデザインに関連する主な制度と経緯

日本

世界

1968

建築バリアフリー法（米）

1990

ADA法（米） 米国障害者法
(Americans with Disability Act)

1994

ハートビル法（建築）

2000

交通バリアフリー法（交通）

2005

ユニバーサルデザイン政策大綱

2006

バリアフリー新法（建築＋交通）

障害者権利条約（国連）

2013

障害者権利条約批准

アクセシビリティガイド公表

2016

障害者差別解消法

（国際パラリンピック委員会）

2017

TOKYO2020アクセシビリティ・ガイドライン

2024

障害者差別解消法改正（合理的配慮の義務化）

2025

バリアフリー法改正（車椅子対応トイレの設置基準等）

* 施行年を記載

「障害者差別解消法の改正」と「バリアフリー法の改正」

障害者差別解消法が変わりました！



令和6年4月1日から 合理的配慮の 提供が義務化 されました

令和3年に障害者差別解消法が改正され、事業者による障害のある人への**合理的配慮の提供が義務化**されました。
障害のある人もない人も、互いにその人らしさを認め合いながら共に生きる社会の実現に向け、事業者の皆さまもどのような取組ができるか、このリーフレットを通じて考えていきましょう！

改正後

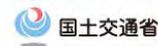
	行政機関等	事業者
不当な差別的取扱い	禁止	禁止
合理的配慮の提供	義務	努力義務 ⇒ 義務

目次

- 表紙 1
- 共生社会の実現に向けて 2
- 合理的配慮の提供とは 4
- 「合理的配慮」には対話が重要です！ 6
- 不当な差別的取扱いとは 8
- 障害のある人へ適切に対応するための
チェックリスト 10
- 困ったときは 12



国土交通省からのお知らせ



2025年6月から 建築物の バリアフリー 基準が 変わります！



見直しを行う3つの基準

- 1 車椅子使用者用トイレの設置数
- 2 車椅子使用者用駐車施設の設置数
- 3 車椅子使用者用客席の設置数

詳細は裏面をご覧ください

03

ユニバーサルデザインを取り巻く社会や環境の変化



ユニバーサルデザインを取り巻く社会の変化

■ 高齢化社会への対応

高齢者の自立支援と生活の質の向上に貢献

■ 多様性の尊重と社会包摂の実現

・誰もが等しく参加でき、活躍できる社会の実現に寄与

■ 持続可能な社会づくりへの貢献

・SDGsの理念と合致し、包摂的で持続可能な社会の実現を目指す

ユニバーサルデザインを取り巻く環境の変化

■ テクノロジーの進化

IoT、AI、ロボティクス技術の普及が、ユニバーサルデザインの新たな可能性を拡大。

例：自動運転車の普及で高齢者や視覚障害者の移動手段が多様化

■ 気候変動と災害リスクの増加

気候変動による災害が増加する中、避難所やインフラのユニバーサルデザイン化が求められる。

■ 法制度・標準の強化（国内外）

国内：改正障害者差別解消法の施行（2024年）。設備だけでなく「役務（ソフト）」面も強化。

海外：EUアクセシビリティ法が2025/6月に適用開始。

■ 企業の社会的責任（CSR）からESGへのシフト

グローバル企業がユニバーサルデザインを競争優位の要素として採用。

■ 経済的な側面

ユニバーサルデザインの採用は、潜在的な顧客層を拡大し、経済成長に寄与。

例：観光分野でのアクセシブルツーリズムの拡大。

まとめ

- 社会や環境の変化に伴い、ユニバーサルデザインは「選択肢」ではなく「必須条件」に近づいている
- 技術革新や政策を活用し、社会全体で取り組むことが未来の鍵

04 ユニバーサルデザインの事例



ユニバーサルデザイン事例

■ 国立競技場

東京2020オリンピックに向けて整備された国立競技場。

世界最高のユニバーサルデザインを導入したスタジアムを目指し

ユニバーサルデザインワークショップを設計から施工まで継続的に行い

「アクセスやすさ」「観やすさ」「安全性」「快適性」を兼ねそなえた

スタジアムとして整備されました。

ユニバーサルデザインワークショップには、車椅子ユーザー、

高齢者、子育てグループなどが参加。

細部にわたり確認と検証を繰り返して整備されました。



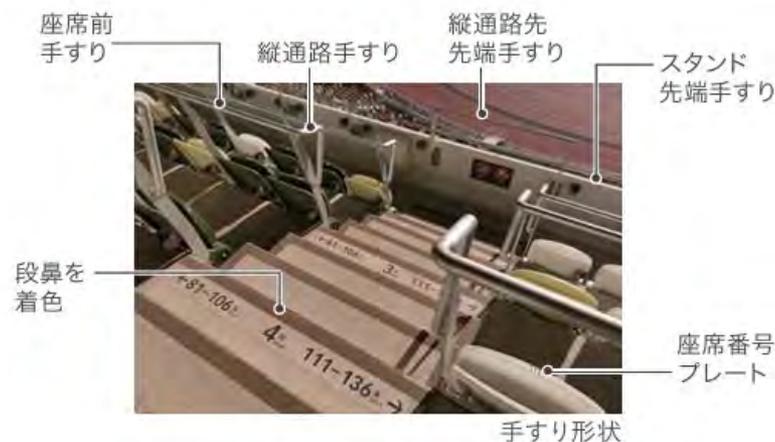
ユニバーサルデザイン事例（東京2020オリンピック）

■ 国立競技場 サイン・ピクトグラム

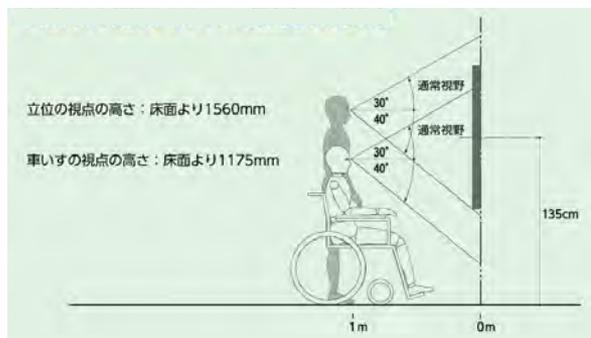
UDポイントの一例

- 全盲の人：触知図、音声ガイド、誘導ブロック
- 弱視の人：大きくコントラストの強いもの、音声ガイド、誘導ブロック
- 車椅子ユーザー：ゆっくり安全に見られる場所を確保
- 高齢者／子ども：低い視点を確保
- 外国人：ピクトグラムで表現（一部多言語を併記）

■ 観客席における縦通路の視認性向上



■ 近くから視認するサインの高さ



■ オリンピックスポーツピクトグラム



ユニバーサルデザイン事例

■ 国立競技場 トイレ

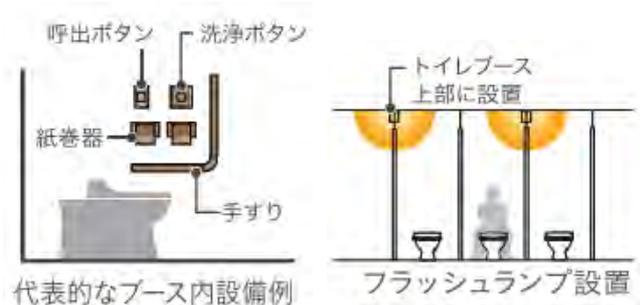
UDポイントの一例

- 高齢者等の利用を想定し、各所に手すりを設置
- 入口近くに親子対応個室、オストメイト対応個室を配置。
- 緊急事態を光で知らせるフラッシュランプを設置
- 男女共用トイレを設置（男女別トイレを利用しにくい人のため）
- 補助犬トイレを、内部と外部に1か所ずつ配置

■ 補助犬トイレ



■ 呼び出しボタンやフラッシュライト



■ トイレプランイメージ



トイレのプランイメージ(女性用トイレ)

ユニバーサルデザイン事例

■ 大阪万博

大阪・関西万博では、誰もが快適に楽しめる万博を目指し、会場の施設やサービスを誰もが使いやすいものにするためのルール「ユニバーサルデザインガイドライン」を定めています。

〈主な特徴〉

インクルーシブな社会の実現：障がい、国籍、年齢などに関係なく、誰もが万博を楽しめるように配慮する

多角的なガイドライン：施設、交通、サービスなど、様々な側面から具体的な基準を定めている

当事者参加：実際に利用する人の意見を取り入れ、本当に使いやすいデザインを目指している

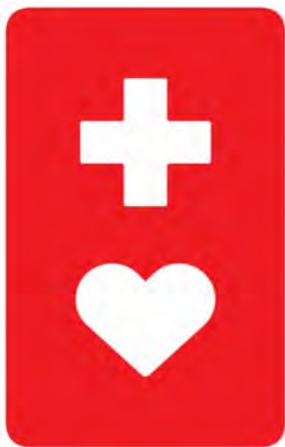
万博後のレガシー：万博後も社会全体でユニバーサルデザインの考え方が広まることを目指している



ユニバーサルデザイン事例（大阪万博）

■ ヘルプマークの配布

多くの外国人は、日本のヘルプマークの存在や意味を知りません。万博という国際的なイベントで、外見からは分かりにくい障がいや病気をもっている、援助や配慮が必要な人が、周囲にそのことを知らせ、スムーズなサポートを受けられるようにするためです



■ ベビーケアルーム（mamaro）

「mamaro（ママロ）」は、子連れの来場者が周囲の目を気にすることなく、授乳や離乳食、おむつ交換などができる、完全個室のベビーケアルームです。

万博会場以外に、JR大阪駅や、大阪メトロ夢洲駅などにも設置されています。



画像は公式サイトより

ユニバーサルデザイン事例（大阪万博）

■ カームダウン／クールダウンルーム

「カームダウン・クールダウン」スペースは、騒がしい場所が苦手な人や、感覚が過敏な人が安心して休憩できる場所です。ここでは、音や光の刺激を避けられるため、疲れた時や体調が悪くなりそうな時に一時的に避難する場所として利用できます。

万博提供は9箇所、企業などのパビリオンは14箇所、海外パビリオンは15箇所などの合計44箇所に設置されています。

また、万博会場以外でも、空港や教育施設、博物館や図書館などにも導入されています。



大阪メトロ夢洲駅 カームダウン

ユニバーサルデザイン事例

■ 印刷物

UDフォント

- 年齢・性別・能力などの違いにかかわらず、誰にとってもわかりやすく、使いやすくデザインされている（UDデジタル教科書体）

カラーユニバーサルデザイン

- 年齢や性別、文化、障害の有無などを問わず、誰にとっても快適に利用できるカラー



■ 文房具

マーカー（三菱鉛筆）

- 「プロッキー」色弱者も識別しやすいユニバーサルデザインのカラー



ハサミ（コクヨ）

- このハサミは利き手に関係なく、薄いビニールやフィルムなどもスムーズに切ることができる



ユニバーサルデザイン事例

■ 家電製品

洗濯機（パナソニック）

- ななめドラムで使う人の身長や姿勢（しせい）にかかわらず衣類が出し入れしやすい
- カラータッチパネルに、色違いで運転モードを表示。取りあつかい説明書がなくても操作が簡単にできる
- スマートフォンでも運転が操作できる
- 濯物の多さに合わせて、自動で最適な量の洗剤を入れてくれる



■ 食品パッケージ

ペットボトル

- くびれ：指が掛かって持ちやすいようにつけられている
- 軽量化：コカ・コーラから発売の「い・ろ・は・す」「綾鷹」などのボトルは、軽さと同時に、つぶしやすくと注ぎやすさを両立した「ペコらくボトル」が採用されている
- キャップ：アサヒ飲料は通常の丸い形ではなく、波型の凹凸をつけてキャップに力がかかりやすくした「エコグリップキャップ」を採用



05

ユニバーサルデザインに関するこれから先の課題



「排除アート」と無意識の排除



排除アートの例

排除アート

特定のグループを対象として排除的な措置を施した公共スペースのデザイン

公共の場

- 本来、すべての人が利用できるべきものであり、特定のグループを排除することは、この理念に反する
- 空間の快適性や安全性を保つためにとられる手法

「是非論」にとどまらず、包摂的かつ支援的なアプローチを模索することが大切

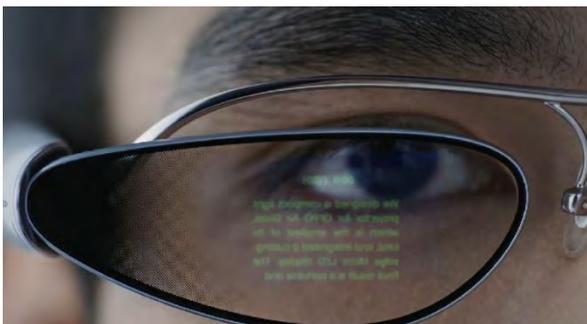
テクノロジーの進化への対応



音声AR



ナビゲーションデバイス



リアルタイム字幕生成

急速なテクノロジーの進歩は、ユニバーサルデザイン概念と実践に大きな変革をもたらす

例

- ① 位置情報と音声ARによる視覚障がい者の鑑賞サポート
- ② 触覚フィードバック技術を用いたナビゲーションデバイス
- ③ リアルタイム字幕生成による聴覚障がい者のサポート

最新技術と従来型のUDをどう組み合わせ共存させるか

※ 出典：音声AR <https://onsei-ar.jp/ja/>

※ 出典：ASHIRAE <https://www.ashirase.com/>

※ 出典：OPPO <https://www.oppo.com/jp/newsroom/stories/airglass/>

「心のアクセシビリティ」の確保



インクルーシブパーク



スタジアムのセンサリールーム

これまでのユニバーサルデザイン
「物理的なアクセシビリティ」の
確保

これからのユニバーサルデザイン
多様な人々が同じ場で同じよ
うに体験し、感情を共有できる
「心のアクセシビリティ」の確保

※ 出典：Inclusion Matter <https://inclusionmatters.org/playgrounds-list/>

※ 出典：感覚過敏研究所 <https://kabin.life/column/348/>

ジェンダーとユニバーサルデザイン



ベビーケアルーム
Baby care room

性の多様性を前提とした空間
設計は重要なテーマである

例

- ① ジェンダーニュートラル
トイレの設置
- ② 誰でも利用できる
多目的スペースとしての
更衣・授乳エリア
- ③ 利用者が安心して
使える案内やサイン計画

多様な背景や感情に寄り添い、
共に心地よく過ごせる場を生み
出す柔軟かつ安全性の高い設
計が求められる

災害時のユニバーサルデザイン



外国人来訪者や障害者等が利用する施設における
災害情報の伝達及び避難誘導に関するガイドライン

災害時における避難情報や経路は、すべての人が平等に利用できるものでなければならない

例

- ① 視覚障害者への
音声避難誘導
- ② 聴覚障害者への
光や振動による警報
- ③ 外国人向けの多言語
表示や翻訳アプリ連動
- ④ 車椅子利用者が
通行できる避難経路確保

社会の動向を踏まえて、災害時のユニバーサルデザインは

これまで以上に真剣に向き合うべき課題となっている

ユニバーサルデザイン研究部会へのお誘い

当調査部会では、2012年よりワークプレイスのユニバーサルデザインについて調査研究を行ってきました。その範囲はUD、ダイバーシティ&インクルージョン、健康経営、ESG/SDGs など多岐にわたります。

<http://www.jfma.or.jp/research/scm10/index.html>

皆さまの参加をお待ちしております。

